

[証券コード:2176]

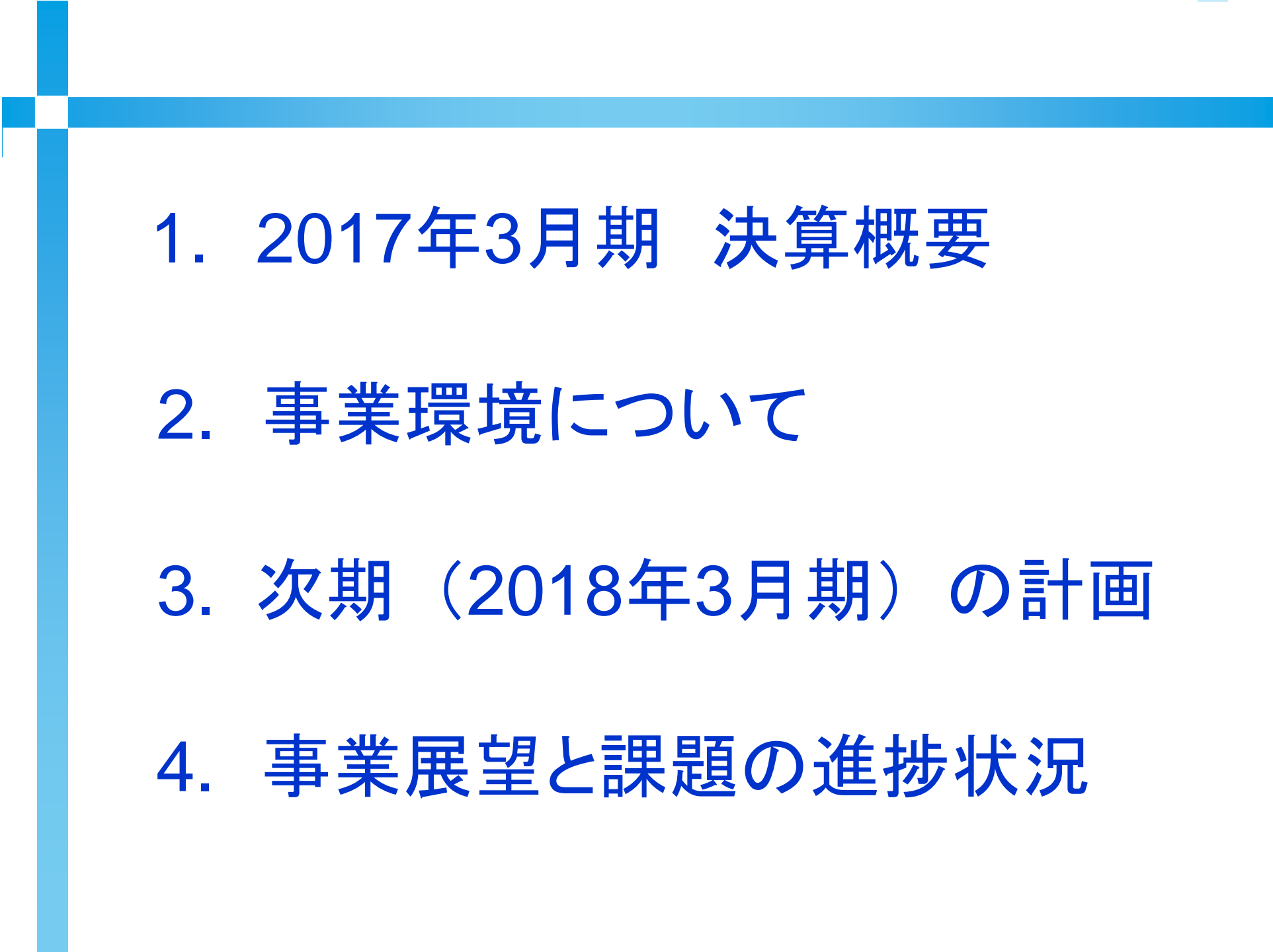


2017年3月期 決算説明会

2017年5月30日（火）

代表取締役社長 中川 賢司



- 
1. 2017年3月期 決算概要
 2. 事業環境について
 3. 次期（2018年3月期）の計画
 4. 事業展望と課題の進捗状況

A decorative graphic consisting of a vertical blue bar on the left and a horizontal blue bar extending from the vertical bar across the middle of the slide. The intersection of the two bars is a white square.

1. 2017年3月期 決算概要

2017年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2017年3月期	対前期	
	2015年4月-2016年3月	2016年4月-2017年3月	金額	前年同期比
売上高	2,116	2,295	+179	+8.5%
売上総利益	362	582	+220	+60.8%
販売管理費	569	526	△43	△7.7%
営業利益	△207	56	+263	—
経常利益	△230	23	+253	—
当期純利益	△1,204	31	+1,236	—

期初予想との対比

(単位：百万円)

	2016/5/14 発表 期初予想	2017年3月期	対予想	
	2016年4月-2017年3月	2016年4月-2017年3月	増減額	増減率
売上高	2,342	2,295	△46	△2.0%
営業利益	47	56	+8	+17.8%
経常利益	9	23	+13	+143.8%
当期純利益	0	31	+30	+3,238.7%

セグメント別 連結業績(前期との比較)

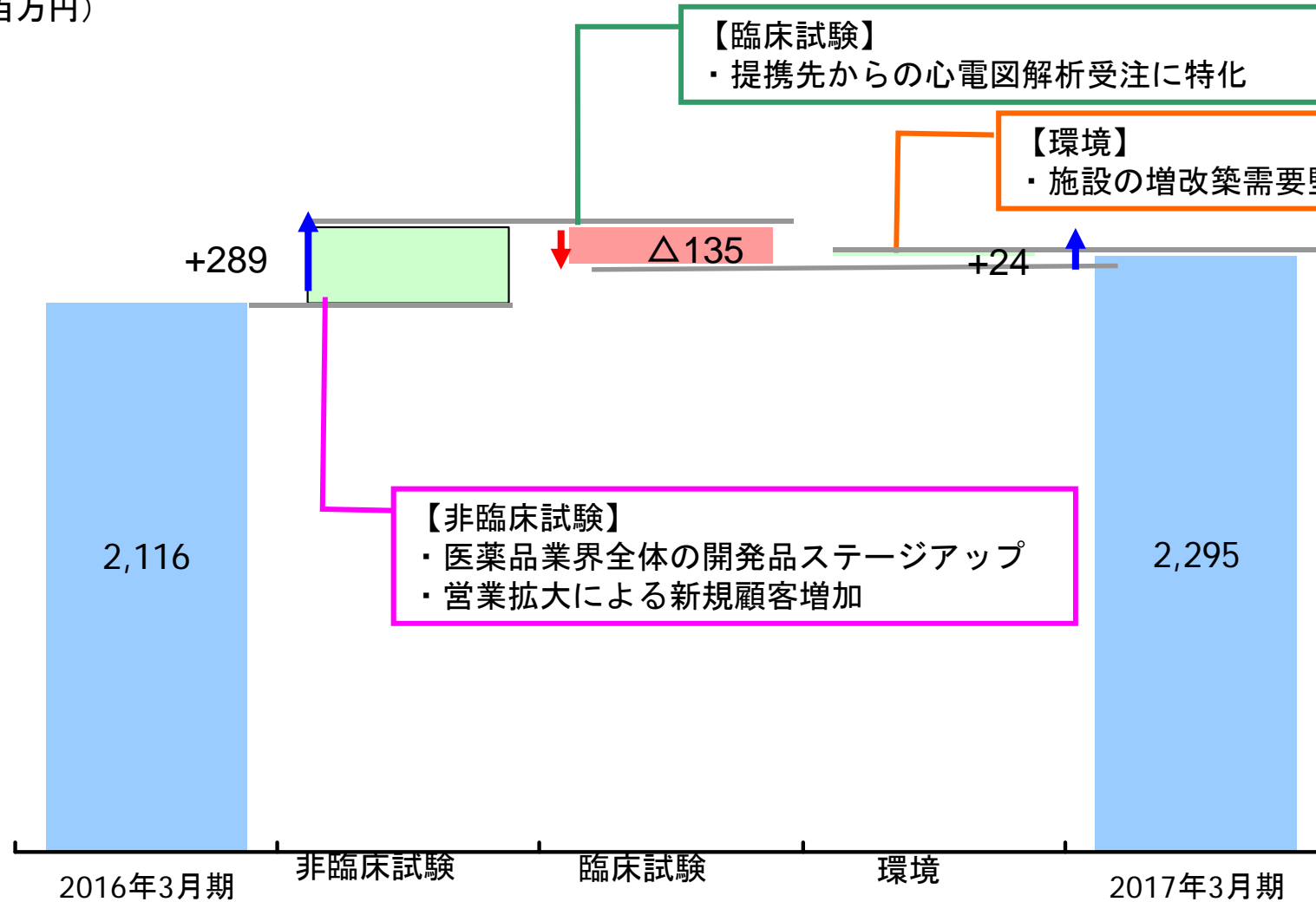
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

		前期 2015年4月-2016年3月	2017年3月期 2016年4月-2017年3月	対前期	
				金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	1,683	1,972	+289	+17.2%
	営業利益	△251	17	+268	—
臨床試験	売上高	149	13	△135	△90.9%
	営業利益	24	2	△22	△91.5%
環境	売上高	284	309	+24	+8.7%
	営業利益	19	37	+17	+88.6%

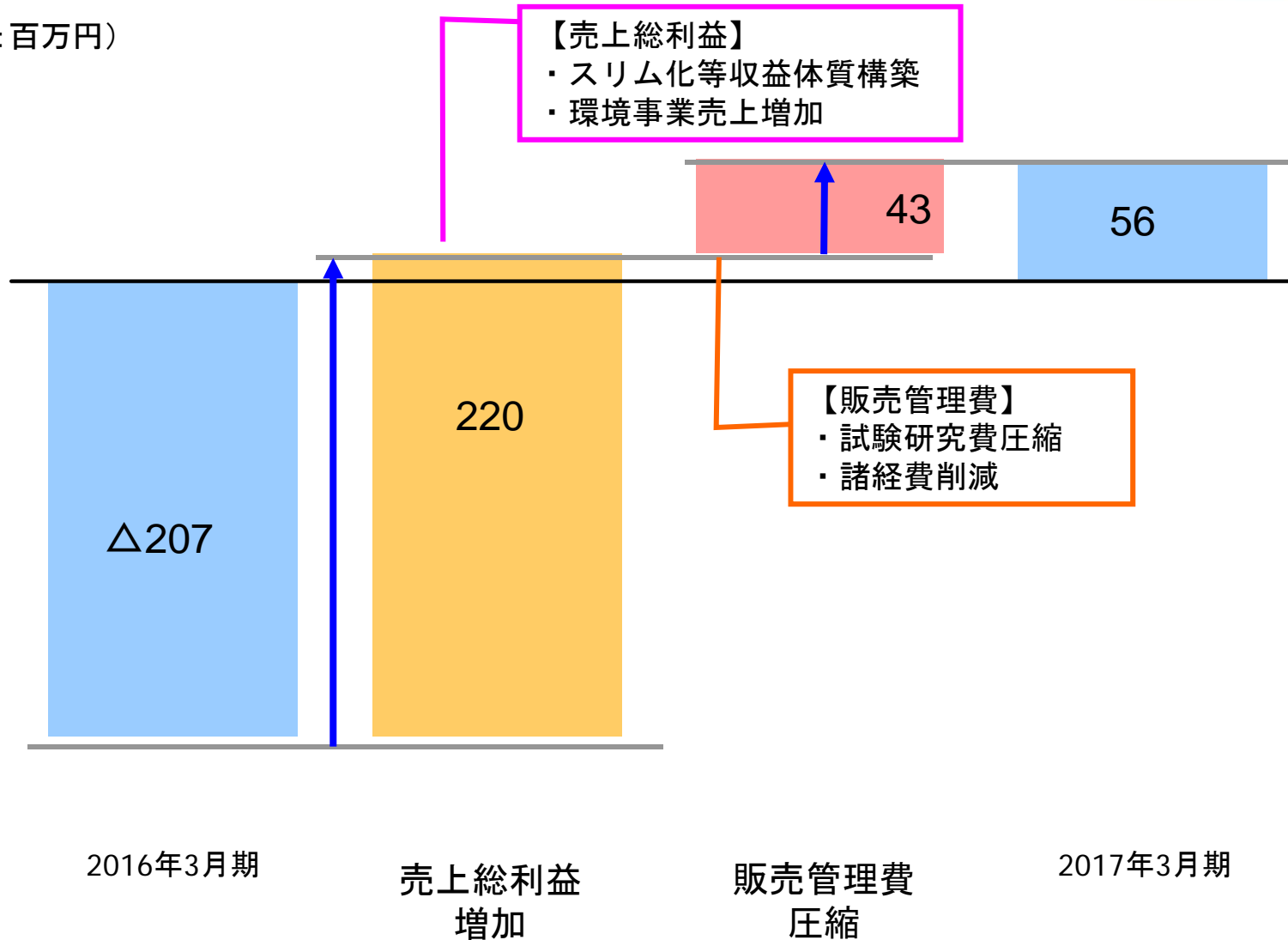
売上高増減内訳

(単位: 百万円)



営業利益増減内訳

(単位: 百万円)



配当・その他指標

配当

(単位：百万円)

2017年3月期・2018年3月期については、無配とさせていただきます。

キャッシュ・フロー

	2016年3月期	2017年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	△171	△1	+169
投資活動によるキャッシュフロー	△29	6	+36
財務活動によるキャッシュフロー	△132	87	+219

自己資本比率

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本／総資産)	43.2	19.8	19.4



2. 事業環境について

医薬品業界（1）

医薬品業界の現状

- ◆ 各社共に開発品目のターゲットがほぼ明確化され、一定数の開発品を常に臨床ステージに上げるべく初期開発も活発に行われている
- ◆ 非臨床試験の外注化推進の一方で、研究施設の建て替え投資を行う会社も増えつつあり、非臨床試験事業及び環境事業ともに受注環境が好転している
- ◆ 米国食品医薬品局(FDA)への電子申請化の一環として、非臨床試験における電子データ(SEND)提出が2016年12月より義務化された
- ◆ 医薬品のグローバル販売や海外導出が定着化しつつあり、日本発の医薬品の米FDAへの申請も一般化してきている。

医薬品業界（2）

再生医療

- ◆ アカデミアを中心に医療への応用の動きは地道に広がっている
- ◆ 難治性疾患や安全性の高い方法から実用化されていく方向は継続
- ◆ 各企業は独自のコンセプトによる再生医療等の製品の開発を進めている
- ◆ 試験需要は徐々に高まっている

海外の新薬開発の動向

- ◆ 欧米共に医薬品開発は活況である
- ◆ アジアの一部地域についても、バイオ後続品等を中心に、市場はコンパクトながらも開発は活発である

医薬品業界（3）

今後の動向予測

- ◆ 日本の新薬開発メーカーに関しては、各社のターゲット領域を深掘りしつつ総じて引き続き新薬開発の手は緩まず。
- ◆ 日本政府は、革新的な研究に対する投資を活発に行っており、今後もこの傾向は続くものと予想される。
- ◆ 再生医療等製品開発については、アカデミアを中心に初期段階の研究品目が開発ステージを上げ、今後企業が参入してくる事により、緩やかに試験需要が増加してくるものと見られる。



3. 次期（2018年3月期）の計画

2018年3月期 業績予想

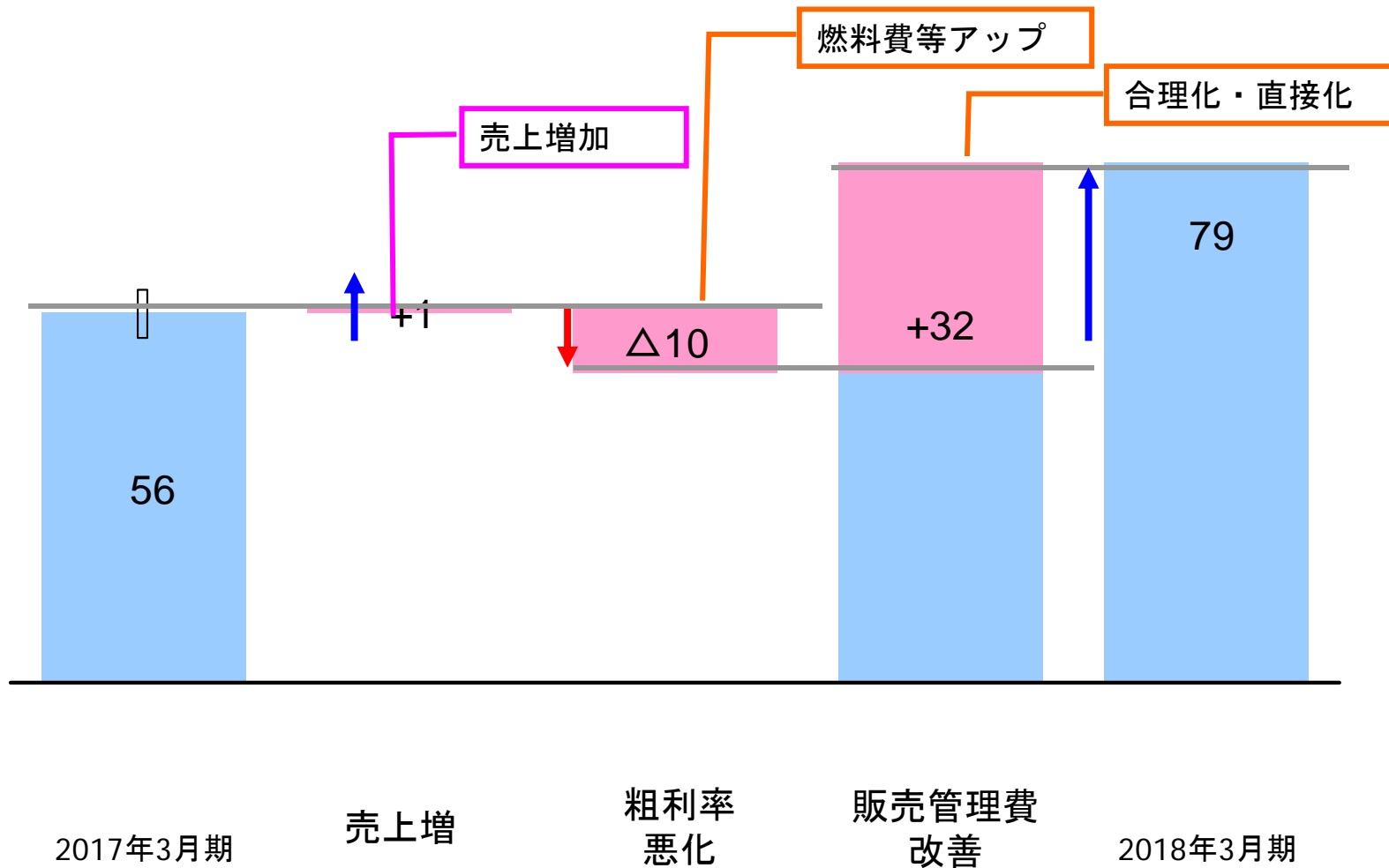
(単位：百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	対2017年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,295	2,300	+5	+0.2%
営業利益	56	79	+23	+40.8
経常利益	23	10	△13	△57.5
当期純利益	31	6	△25	△79.3

2018年3月期の期初受注残高は1,322百万円（対前期118百万円増）

営業利益増減内訳

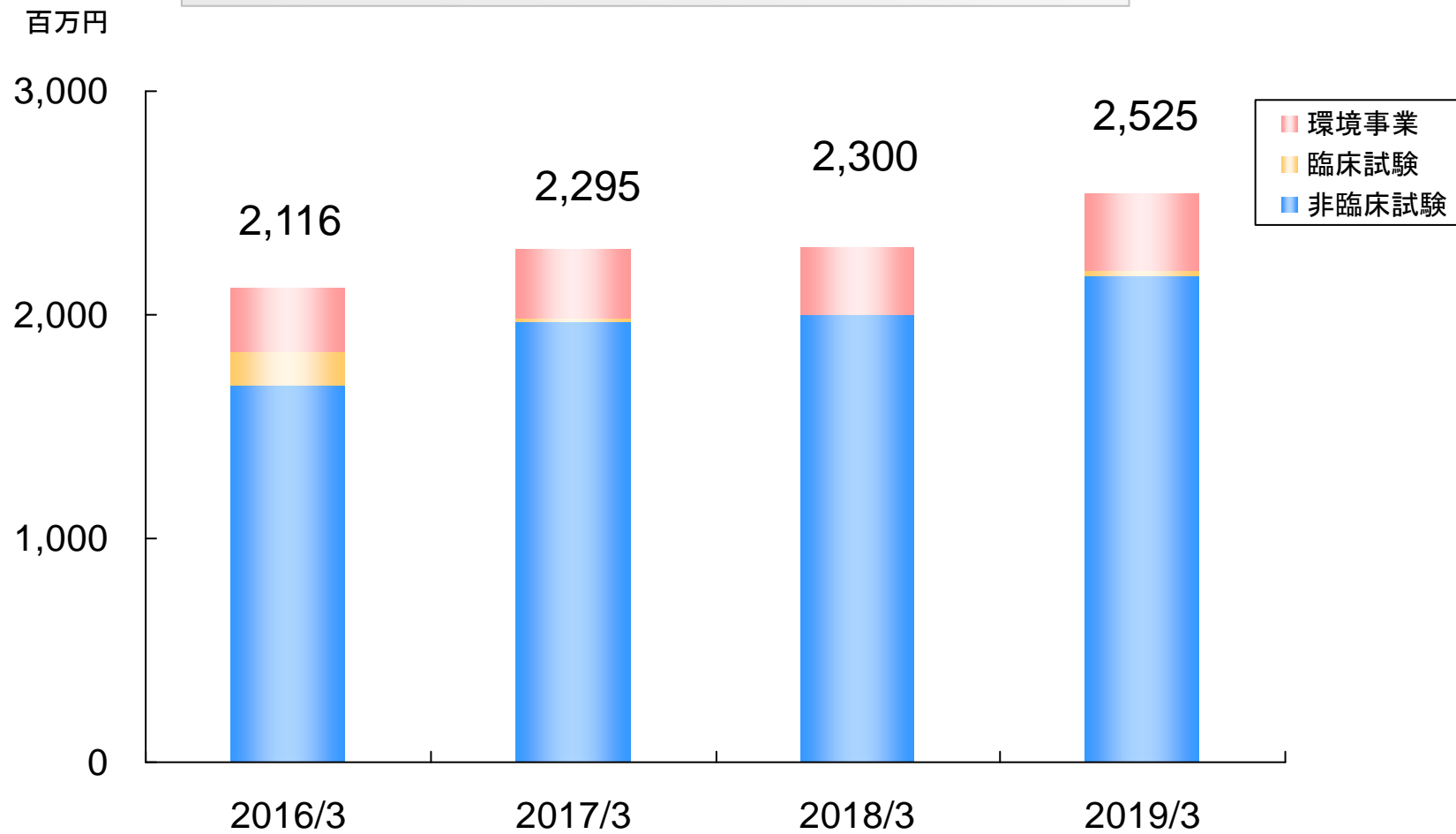
(単位: 百万円)



4. 事業展望と課題の進捗状況

中長期の事業展望

売上目標：25億円（2019年3月期）



非臨床試験事業の展望

再生医療関連事業の拡大

- ◆ iPS細胞の医療への応用を研究するアカデミア及び企業との共同研究等へのMHC動物の供給及び技術供与等により、関連試験実施に繋げる
- ◆ 代替法試験としてのiPS細胞の創薬応用を推進し、将来の事業に繋げていく。

バイオ医薬品試験の拡大

- ◆ 核酸医薬品を含むバイオ医薬品向けの試験の取り込みを強化する

海外展開

- ◆ 当社得意分野を中心に市場を拡大し、海外市場からの受託を増加する

MHCサルを使った主な研究

京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥氏により世に出されたiPS細胞は再生医療の切り札とされる。その実用化を進める上で拒絶反応を緩和するMHCサルは必要不可欠な存在となっている。

機関	主要メンバー	研究内容
理化学研究所	高橋政代氏	加齢黄斑変性症の臨床研究を計画。他人のiPS細胞から作った網膜細胞シートを移植して拒絶反応が起こらないかを見極める実験をサルで始めた。拒絶反応に関わる白血球の型「HLA」の半分を一致させたところ、これまでのところ拒絶反応の症状なし。移植先のサルは提供元のサルが両親から受け継いだHLAの型と半分は一致する。今後サルの数を増やして長期の経過を調べる。
京都大学	高橋淳氏	パーキンソン病の臨床研究を計画。サルのiPS細胞から作った神経細胞を別のサルの脳に移植して観察した。白血球型が一部合っているサルでは拒絶反応が起きなかった。
大阪大学	澤芳樹氏	iPS細胞から分化させた心筋シートを心臓に移植することで「虚血性心筋症」等の患者の心臓の機能を回復させる。その研究の過程でMHCサルが使用されている。
信州大学	柴祐司氏	重症心不全の治療を目的として、iPS細胞から作った心筋細胞を心筋梗塞を発症した心臓に移植する。研究成果を英科学誌ネイチャーに発表

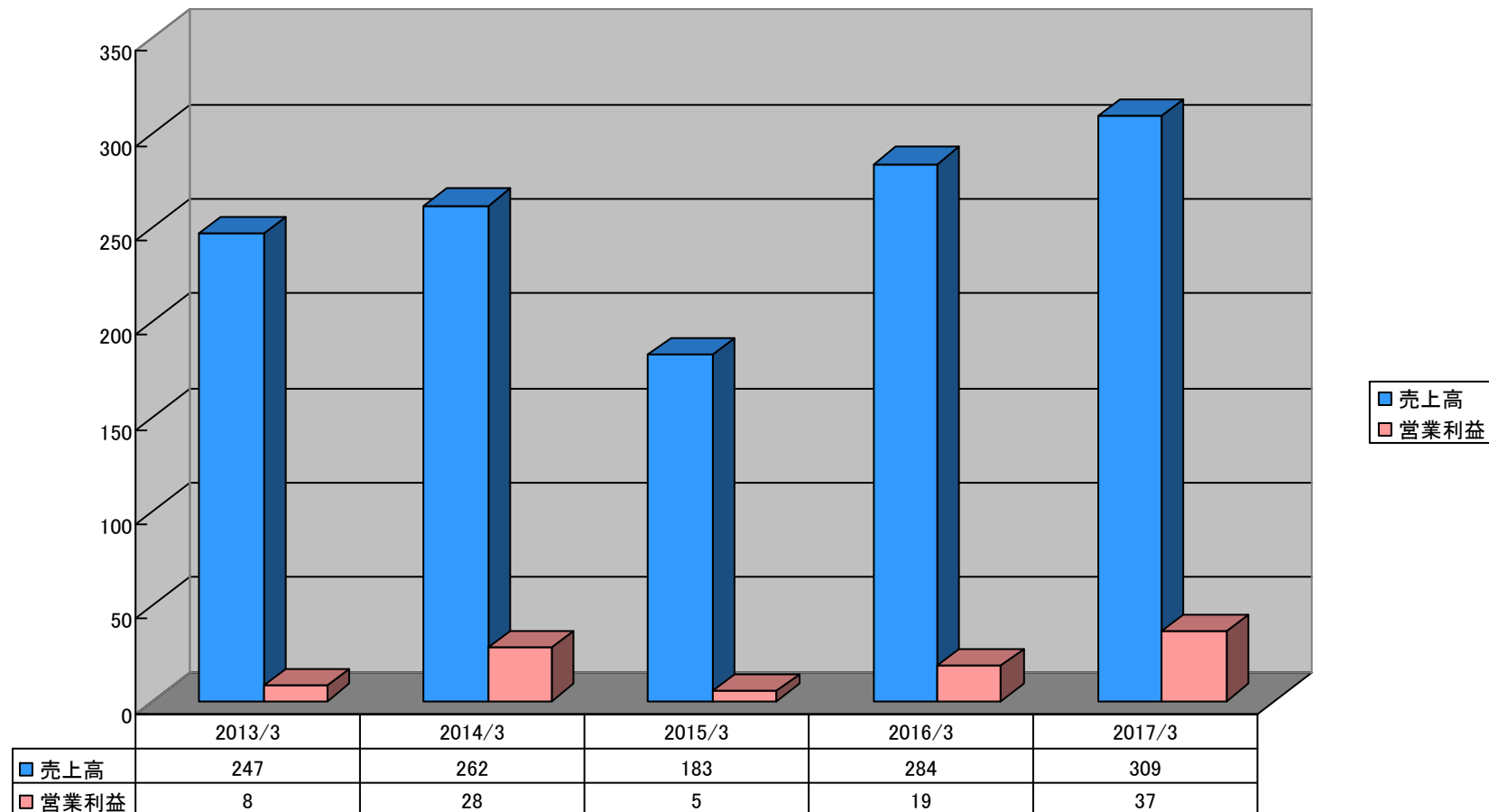
研究開発

1. MHC（移植寛容型）カニクイザルの安定供給に関する研究
（東海大学、滋賀医科大学、慶応大学との共同による
AMED採択事業）⇒4年計画の最終年度。利用機関拡大中
2. 信州大学等とのiPS細胞を用いた心不全治療の共同研究
3. 信州大学コンソーシアムでの他機関からの受託開発
4. 再生医療等製品に対する各種安全性試験の立上げ・拡充
5. 安全性試験へのiPS細胞の応用（業界共同推進）
6. マーモセットを用いた試験種の拡大⇒拡大中
7. 実験動物（小動物）の使用匹数削減に関する研究⇒実用化済
8. 創薬研究への遺伝子応用⇒継続中

環境事業の内容と展望 (1)

業績推移

百万円



環境事業の内容と展望（2）

業務内容

1. 自社施設で得た経験やノウハウ、AAALAC認証を生かして、主に生物学的研究施設の新築や建替え等に対して、設計、建設、内装、空調、脱臭、排水、機器設備の設計及び施工、販売を行う
2. 世界で当社独自の独自製品であるINA湿式空調システム、及びサイクロン型スクラバー（開発品）の多産業への販売、設置、メンテナンス
3. 脱臭に関する長年の学術的知見と経験を生かし、様々な産業に対する脱臭コンサル及び脱臭機器や素材の設計、販売、施工、メンテナンスを行う
4. 微酸性電解水生成装置（口に入れても安全な殺菌水）の販売
5. 実験関連設備の販売等

環境事業の内容と展望（3）

代表的な販売品

INA湿式空調（自社製品）、サイクロン型スクラバー（自社製品）、カセット型スクラバー、活性炭脱臭システム（ハニカム活性炭、粒状活性炭）、光触媒脱臭装置、その他脱臭装置、各種空調フィルター、排水処理関連、動物飼育機材各種、微酸性電解水生成装置、その他

市場環境

- ◆ 近年、アカデミアや企業の研究所の老朽化に伴う建替え需要、及び新築需要が高まっている
- ◆ AAALAC等の動物福祉に配慮した動物飼育施設の需要が増えている
- ◆ 一般的な脱臭市場についてはほぼ成熟状態にある。但し、当社が取り組む特殊な脱臭市場には、法規制の厳正化が追い風となっている
- ◆ O157を始めとする食品への殺菌用途、口腔殺菌用途（歯科向け）、畜産向け、実験施設向けなど、安全な殺菌水への需要は徐々に高まってきている

環境事業の内容と展望（4）

施策1：エンジニアリングの拡大

- ◆ 研究機関の老朽研究施設の増改築工事が増加中。

代理店及び営業協力会社の拡大を図ってきた事と併せ、一級建築士等の有資格者を追加採用した事から、内装工事を含むエンジニアリングの受注拡大を目論む。

施策2：インターネットの営業活用

- ◆ 現在、マーケティング支援サイトを使った、脱臭、除菌関連の営業戦略を実行中。営業拡大を図っていく。

施策3：実験機器・機材の輸出を模索

- ◆ バイオテクノロジー研究の比較的盛んなアジア諸国に対する実験機器・機材の輸出販売を行っていく

ご清聴ありがとうございました

IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ
総務部 IR担当

TEL : 0265-72-6616

医薬品開発のベストパートナー



Ina Research Inc.

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2017年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2017年5月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。